

平成26年5月30日 八尾市子ども・子育て会議
 (仮称)子ども計画の理念・方向性・骨子等の検討について

委員からの意見	意見に対する市の考え方
1 計画において1～2年毎に重点施策(重点テーマ)を打ち出していくことが必要ではないか。そうすることで市民の計画に対しての意識も高めることできる。	施策については5年の計画期間において全般的に進めていく流れとなりますが、重点課題を設定し、周知していくことで市民意識の向上に努めます。
2 小学生の保護者は、「子どもの安全」に一番関心をもっている。	基本理念の説明文章中において「安全に」という文言を加えました。
3 子どもの視点のところに、子どもが主体となり、子どもの参画につながるよう、エンパワメントや子どもの権利という視点を入れた方がよい	基本理念の説明文章中において、「自分らしく」「他者を尊重しながら」「主体的に活動する力」という文言を加えました。また、基本的視点の「子どもの視点」に追記しました。
4 子どもたちが自ら活動をし、地域をよくしていくといった被災地の活動のみで、子どもたちのリーダー育成などを行う必要があると感じた	
5 男女共同参画社会づくりの視点の中で、女性への暴力や性的マイノリティへの対応などを入れてはどうか	具体的施策の取り組み検討の中で、ご意見をいただきます。
6 学校に行かないことを選択したり、行くことができない子どもたちへの支援を忘れてはならないので、明文化してほしい。	具体的施策の取り組み検討の中で、ご意見をいただきます。
7 行政の支援としては、教育者だけでなく、子どもを取り巻くすべての環境で常に皆で見守るような視点が必要だと思う。	基本的視点の「地域全体で子育てを支援する視点」において、対応できるものと考えます。
8 外国籍の市民や子どもなど、多文化をイメージできる文言を追記してほしい。	具体的施策の取り組み検討の中で、ご意見をいただきます。
9 全体を通じて、多様性という点について忘れないように意識する必要がある。	すべての子ども、すべての子育て家庭が対象であることから、これまでも多様性の視点を持ちながら進めてきたことから、今後も引き続き留意したいと考えます。
10 「(仮称)八尾子ども計画」のネーミングについて、よい案を検討してほしい。	正式名称の決定方法については、子ども・子育て会議で意見を聞きながら、公募等を含めて検討します。
11 基本的な視点に「すべての子どもとともに育む視点」が必要ではないか。 ※「すべて」とは、外国人、障がい者、貧困、虐待、ひとり親の問題、他すべて。「育む」とは、地域ごと、大人も子どもも対象として。	基本的視点の「子どもの視点」において、外国人や障がい者などを含め、「すべての子ども」の中に内容を含むものと考えます。また、「地域全体で子育てを支援する視点」において、「子どもとともに」という文言を加えました。
12 八尾市の小学校・中学校の生徒間の情報交換の場があったらいいという意見、もっともだと思う。ぜひ実現に向けて検討していただきたい。	具体的施策の取り組み検討の中で、ご意見をいただきます。
13 小学生や中高生が同世代で、集団でも1人でも集まれるような居場所づくりが大切である。	
14 子ども会のイベントは、地域とのふれあい、老人ホーム慰問、地域主体の祭りなど小学生にとって有益なものが多い。加入率を上げるためには、告知だけでなく、役員の負担軽減や会費の減額等を考える必要がある。	具体的施策の取り組み検討の中で、ご意見をいただきます。
15 「理念」についての変更は必要ないが、会議の意見については「基本的な視点」の部分に適宜追加する方向がよいか。	いただいた意見については事務局にて検討のうえ、「基本的な視点」や「基本方向」「具体的施策」において、適宜反映させていただく予定です。